

DATスキャン、頭部MRI、脳血流SPECTを用いた多面的研究 に関する告知

123I-FP-CIT（ダットスキャン静注）は、イオフルパン(123I)を成分とする SPECT 検査用の放射性医薬品でパーキンソン病、進行性核上性麻痺、レビー小体型認知症の診断に使われます。今回2018年4月から2020年1月まで当院で撮像した画像について、正常例、パーキンソン病、レビー小体型認知症、進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症患者についてこれらの画像を比較し新たな診断法を開発するとともに、これらの画像と認知機能、言語機能、嗅覚、身体機能との相関部位につき検討したいと考えています。この度、より強固な知見を得るために得られたデータを統合し、論文や学会発表などの方法で情報発信する運びとなりました。本施設の研究に協力していただいた方々へは改めましてこころより感謝申し上げます。このことと関連し下記で具体的なお説明をさせていただきますが、本告知に対して協力を望まれない方は遠慮なくお申し出願います。お問い合わせやその方法につきまして下記をご参照ください。

1. データの利用目的とデータ統合の方法

【利用目的】高齢化が進む日本ではパーキンソン病や、パーキンソン症候群の有病率が高まる一途であり、より早期に、認知機能、身体機能の軽微な低下などの初期症状を鋭敏に検出し、早期治療・早期介入に結び付けることが大切です。早期診断のバイオマーカーとしてDATスキャン、頭部MRI、脳血流SPECTなどの画像検査に着目しており、有効性を検証するためのより確かな情報として利用されることとなります。

本施設で行われた研究名：DATスキャン、頭部MRI、脳血流SPECTを用いた多面的研究

研究目的：頭部MRI,脳血流画像、DATスキャンによる新たな変性疾患の診断法を開発するとともにこれらの画像と認知機能、言語機能、嗅覚、身体機能との相関部位につき後方視的に検討する。

研究実施期間：2020年4月1日から2023年3月31日まで

研究実施場所：兵庫県立リハビリテーション西播磨病院

【方法】本施設の研究に協力していただいて得られた皆様のデータは、個人名を記号化することにより、個人の識別が不可能な形で利用されます。よって個人のプライバシーは確実に保護されます。

